



活動の場所

神戸市北区_企業敷地内

活動目的

土地本来の植物を用いた生態系保全エリアを企業敷地に展開し、地域の生態系保全活動に貢献する

活動内容

神戸R & Dセンターは、環境試験器メーカーである当社の研究開発拠点であると同時に、環境保全活動の推進拠点でもあります。「人と生きものが共生する事業所づくり」をコンセプトに2000年の開所当時から地域本来の在来種にこだわり、森、水辺、草地が一体となった約1.5haの環境保全エリア（パンピの里）を創出してきました。

①郷土の森づくりを実践した「エスベックの森」

事業所を囲む森は、社員や関係者による3万本の植樹によるものです。横浜国立大学名誉教授であった故・宮脇昭先生ご指導の下、地域の潜在自然植生に基づき植えられた苗木は、2021年現在、大半が樹高15mを超え地域色豊かな森を形成しています。また、5年毎に樹木の成長量調査として機能評価も実施しCO2の固定量を測定しています。

②テーマの異なる3つの水辺「エスベックビオトープ」

敷地内に設置されたビオトープは、テーマ異なる3つの水辺エリアと、在来種草本を中心に植栽された緑地によって、自然生態系に配慮した空間となっています。毎年カルガモが営巣・産卵するなど野鳥や昆虫が多く生息しています。

③地域性種苗100%の屋上草地「つながりの大屋根」

事業所の屋上に設置した屋上草地は、半径15km以内の地域性種苗100%の植物で構成しています。導入した在来野草はすべて六甲北部地域での自生を確認したうえで種子を採取、育成したものです。また専門機関である兵庫県立人と自然の博物館から監修・助言のほか、貴重な地域性種苗スズサイコ（キョウチクトウ科の多年草）等を提供

ポイント

- ◎土地本来の植物にこだわった生物多様性保全エリアの展開
- ◎生物生息空間の保全
- ◎希少種の生息域外保全

活動効果、今後の展開 等

- 効果：樹林によるCO2量固定効果
- 効果：希少種の保護・繁殖
- 今後：兵庫県の地域遺伝子を有した植物（地域性種苗）を、緑地の質の向上を検討されている事業者を提供する
- 今後：ニホンミツバチなど野生の訪花性昆虫を導入し、作物等の受粉に役立てる取組を検討
- 今後：近隣の学校教育と連携した環境学習プログラムの提供